実施要領　様式５（第７条第２号関係）

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誠実･･･個人の尊厳が保たれる。その人らしい暮らし。 信頼･･･おだやかで、ゆったりとした自由でやすらぎのある暮らし。 成長･･･自分らしさや誇りを保ち、自分でやれる喜びと達成感のある暮らし。	○	左記を常に心掛けて接する。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホール内や休けい室などに掲示。毎朝の申し送り時に唱和を行う。	○	援助、ケアプランなどすべての事がらに対して理念を念頭において取り組む。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	説明および掲示など行っているが、その他の取り組んではいない。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	平成18年度は町内会の班長であったり、子供110番に参加など地域への参加は出来うるかぎり行っている。あいさつはもちろん、降雪時などの近所同士の助けあいも自然と出来ている。認知症の普及活動（理解や予防）に関しては未実施。	○	現在のところ、具体的な事は考えていないが地域貢献は行こないたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価を行こない、再認識する事を目指している。外部評価は改善に取り組んでいる。	○	左記のとおり。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況、事故（ひやり、ハッと）報告など説明実施。町内会、御家族より意見も出初めており、質問や行こなった実績に関しては次回に報告をする。	○	左記のとおり。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特定の機会は設けていないが、情報や質問の為に連絡や役所へ訪問する事を行こなっている。	○	左記のとおり。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	公雌雄には職員が参加をし、その後報告を行こなっている。しかし、現在必要としている入居者の方はおらず活用はしていない。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法律を学ぶ機会は設けていない。しかし関係する講習には参加している。又、職員にはその点自覚する事を徹底している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長および管理者が書面を通じて説明を行こなっている。その際はきちんと充分な時間を設けて、お互いに納得出来るまで話しを行こなう。	○	今後、新たに契約を結ぶ事などある場合も、書面を作成し、充分に説明を行こなう。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主にホーム長が苦情に関しては聞きいる事が多い。それを各管理者に降ろし、そして職員は意見を出来るだけ反映出来る様に工夫をしている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や毎月初めに手紙での報告など行こなっている。	○	左記の件を今後も行こなっていく。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成18年6月より、2ケ月に1回のペースで運営推進会議を実施しているが、意見や苦言など出された場合、次回の会議にて結果の報告を行こなっている。	○	左記のとおり。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年１～２回の全体会議ならびに、年に最低１回は行こなう個人面談で意見をのべてもらい、その意見をもとに改善に向ける。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在、勤務調整は行こなわれていない。	○	入居者の方々の状況の変化に伴い、勤務時間の変更の必要性があるのではと職員より話しが出ており、今後変更の可能性はある。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	行こなっている。（当ホームにおいては２ユニットであり、その間での異動となる）	○	男性・女性の比率も重要と思われる。その点も考慮に入れる。
５．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	細かな計画は立ててはいないが、育成に関しては前向きである。	○	外部研修に関しては、職員が必ず出席出来る様順番に参加を行こなっている。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流は以前から行こなっている。	○	職員より他ホームの見学の希望が出初めている。何を目的に見学をしたいかを明確に定めて互いにスタッフの交流も良いと思う。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	取り組んでいるものの、効果が上がらない現状である。	○	職員休憩時間は必ず、ホームの外にある休憩用の小屋で行こなう。（業務のリセットを行こなう為、実施）
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	今年度より、各職員に自己査定（評価）を行こなう方法を開始する。それを基に管理者および運営者が面接を行こなう。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前に、ご本人様とご家族と何度かお合いして、互いに話しを行こない、理解をしてから入居をして頂いている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行こなっていない。（※小規模多機能居宅介護事業所対象項目）		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個々の方々の状況にもよるが、場合によっては入居当初は、日帰りであったり家族の方が泊まったり、逆に職員が自宅へ出向く事を繰り返すなど多様な方法があると思う。	○	左記のとおり。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営推進会議において、町内、老人会会長様より〝職員からまず楽しまなくてはなりませんよ〟などと助言を頂く。		若い職員が多く、八戸（南部）に昔から伝わる事がらや、しきたりなど入居者の方々にから、教え頂く事も数多い。（八戸地方だけでも海と山の間では伝統・しきたりはかなり違っている）

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	各行事はともかく、日常面会時などは積極的に情報の交換を行こなう事に努める。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	息子さんとの２人っきりでの食事の機会を設けるなど、個々の入居者の方に合った支援を行こなう。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族とは別の馴染みの方々の面会および手紙や電話連絡など少しずつ多くなっている。特に支援を行こなっているという事はない。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自らから関わり合えない方々には職員が仲介に入り、交流を深めていただいている。	○	他の入居者の方が入院をしたり、亡くなられた時、数日後〝いつものおばあちゃんがいない〟と話されている。入居者の方々には、きちんと互いにいつも在る関係を認識しており、今後も説明仲介を行こないたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院などにより、入院をしやもえず退ホームになった方に対して、お見舞いに出向いたりは行こない続けている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか希望が出てこない現状ではある。その為、御本人の意思はどこにあるかを充分に検討を行こない、出来るかぎりの把握する事を努めている。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や担当であったケアマネージャーからの情報などを収捨。各職員は夜勤などの予裕の持てる時間を用いて留意する事に努めている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カルテに情報は記入する。最近においては、水分摂取状況の挙握に対して留意を行こなっている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	くわしいご家族の方より意見を頂く事は、今まで少なかった。ただし意見出された場合においては、充分に反映される様、努めている。	○	ケア・プラン見直しの時記などにおいて、今までより、より早い時期に、御家族の方々に相談を行こなう。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	３ヶ月に１回は見直しを行こなう。又それ以前に変化が生じた場合は、その都度、見直しを行こなっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	最長においても３ヶ月に１回、計画については見直しを行こなう。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの為、当項目については評価は行こなわない。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会、小学校、保育園の方々と主に支援交流を行こなっている。当ホームとしても〝子ども110番〟に加盟をしている。	○	民生委員、老人会の慰問など。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険の他のサービスを受けるのは難しいが、医療保険にからむサービス、又他のサービスを受けている入居者の方も有る。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行こなっていない。今後についても、現在のところ、検討もしてはいない状況にある。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がない場合は２ケ所、いずれかの医療機関より選んで頂いている。希望がある場合は、その医療機関にお願いをする。	○	ただし、その医療機関に対して応診できるかなど、細かな調整を行こなう。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、認知症の専門のＤｒの支援は受けていない。	○	やはり職員としても専門医の存在は重要であり、より良い専門医をさがす必要性は感じている。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	八戸市医師会訪問看護ステーションと契約（平成18年６月より）毎週１回の訪問の他、体調変化など相談および処置など行こなって頂いている。	○	今後については、状況に応じて（必要性）継続するかを検討する。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	左記に加えて訪問看護ステーションとも連携をして、入院の際は協力し実践を行こなう。	○	入院時、うつ状況など精神的ダメージを少しでも軽減させるべく、職員が病院に出向いたり、本人が元気の出る品（写真や入居者の寄せ書きなど）を美容院に持って行ったり、孤独感の軽減に努める。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	左記に加えて訪問看護ステーションにも協力して頂き、方針および情報をしっかりと共有していく。	○	御本人は元より、御家族の方々により意向は異なるので、その点をふまえて早い段階から少しずつでも話しを進めておく。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ある入居者の方に対して、日赤病院の医師の指示のもと支援に取り組んでいた実績がある。（ガンを患った方であった）	○	44とリンクする。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	御家族、ホーム、そして担当ケアマネージャーにて場合によっては、御自宅まで伺って協議を行こなう。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の目標に言葉がけや対応の仕方が良くあげられる。各職員意識しているのは解るが、いまだに徹底は出来ていない部分がある。	○	その言葉がけや対応、より具体的目標を設定をし、毎日、職員各自振り返る機会の場を設けるなど新たなこころみが必要と考える。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ボードを利用するなど、個々に合った説明の仕方を考慮し出来るかぎり、意思を表出出来る様な工夫を行こなう。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴に関しては、１名、１名の方々のスペースに合わせて実施を行こなっている。	○	左記の入浴はその為、１名の方に対して１時間半におよぶ場合もある。しかしそれが、その方のこころ良いリズムなので出来るかぎり、行こなっていく。職員はその時は役割を上手く分担して実施をする。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望の店がある場合は、時間を作り、行ける様に努める。なお、現在においては希望少なく、訪問の散髪サービスを中心に利用している。	○	左記のとおり。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食に関しては、職員中心で行こなっている。昼食および夕食に関しては支援を行こなっている。片付けは毎回行こなっている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	糖尿病など疾患のある方々に対しては、量の制限や１回の量を少量にするなどの工夫を行こなっている。	○	左記のとおり。なお、現在喫煙を行こなう方はいらっしゃらない。
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ・リハパン、パットに対して、同じ種類でも厚さや形状の違いにより、ご本人様の感覚が変わってくることから、その点も配慮に行こなっている。	○	左記のとおり。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおむね２～３日に１回となっているが、希望がある場合は、入浴をしていただいている。又、タイミングは重要と考えており朝から夕まで合った時間に入っていただいている。	○	左記のとおり。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝覚きてこられる時間も、個々の方々によってまちまちである。その点、スタッフの具合に合わせず、個々の方々のスタイルに合わせている。	○	昼に覚きられる方もいられる。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ぬり絵、計算、漢字の練習、読書など支援を行こなっている。	○	左記のとおり。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	〝持っていたい〟という方には持っていただいている。現在自身で持っていただいている方は計４名である。又すべての方の預かり金は金庫に保管を行こなっている。	○	左記のとおり。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員の方々に均等ではないが、一人一人の方々の希望（出されない方に対しては想定して）にそって、当日に出来ない場合もあるが実施をしている。	○	左記のとおり。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓まいりや実家訪問など要望出来ない方に対しても、過去の状況などをふまえて機会を作っていく。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らでボタンを押すという方は現在いないが、代わりに電話をかけとりついでいる。手紙は送ってこられる内容を見て、皆様楽しまれている。	○	字を書く事を不得意にしている方が多いので、レクブ字を書く事も行こない初めている。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	遠方から来れられた方など、泊まられるケースもある。簡易タイプであるがベッドを準備している。	○	認知症ケアの性格上、多数の面会により第三者である入居者の方が気持ちが落ちつかなくなる場合がある。（行動、話）その点、配慮は必要である。
（4）安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	○	目に見える甲くそはもちろんであるが、話しによる拘束もある事を、新めて職員には再認識してもらう。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は理解をしており、玄関にカギはかけていない。ただし２階の階段に関しては急に廊下から階段となっている為、ドアにカギを付けている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室にいられるか、他の場所にいられるかを充分に把握していない事がある。	○	ホールにいない場合、どこにいられるかを９名の方、常に把握していく。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員のみが使用する注意を要する物品に関しては保管場所を定める。入居者の方の私物に関しては、一人一人の方々の状況に応じて検討。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一発生した場合、必ずかくさずに〝ひやりハット〟〝事故〟の報告を行こない、それに基ずいて改善をしていく事努めている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル自体は整備するも、訓練に関しては定期的に実施は行こなっていない。外部研修ある場合は順番に参加している。	○	誤嚥の可能性、高い方々も多くなってきており、全ての事故想定、定期訓練はなかなか実践は難しい。しかし誤嚥など確実に必要性高いものに関しては定期実施を目指す。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月１回の避難訓練の実施。地域協力に関しては現在のところ未実施である。		近所への災害時、協力の働きかけ（特に青年に対して）

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	特に入居当初に関しては起こりやすく、入居前にくわしく説明および理解をお互いに出来る様に努めている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全入居者の方に対して、毎朝バイタル測定、通常と表情、行動、言動の変化見られる場合は注意をし、体調不良と確認した場合には、訪看又は主治医に報告を行こなう。	○	左記のとおり。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	経験の若い職員に関しては最低限担当となっている入居者の方の服薬（種類）を完全理解する。長い職員に対しは全入居者の薬の理解、長期服薬に関しては今後も必要かを医師と相談する。	○	副作用については、まだ弱い部分であり薬剤師の方とも接する機会を今後は設けていきたい。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の摂り方のチェック、食材に繊維の多い物など工夫をしているが、イージーファイバーなど補助の使用や、朝食前のラジオ体操など小さくであるが取り組んでいる。	○	左記のとおり。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食ごとには全員行こなっていない。夕食後に関しては全員支援を行こなう。（努めているが〝必要ない！〟と行こなえない時もある）	○	ただし、必ず必要と感じる方に対しては毎食後行こなっている。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	加齢に伴ない食事量の低下や拒食される方々が増えてきている。ゼリーの補助食や液体食、又は大好きな食物など、まずは何でも良いので〝食べる〟事に注意をはらう。	○	例として、ごはんを全く食べなくなった方がいるも、そうめんなら食べると解かりそれを主食にするなど。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	指定されている全ての感染症に対しては行こなっていないものもあるが、最低限、うがいと手洗いに関しては屋外から入ってきた人に対して、すべての者が実施している。	○	取り決められている事がらを再認識して実施をする。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒液や漂白液を使用して除菌に努めている。		使用後のまな板の乾燥、および消毒を実施初める。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	少しずつ工夫を初めている。	○	意見をもとに花をかざったりしている。又他の意見として看板を立てても良いのではないかというのも出ており追化する様に今後も努める。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは日中、大半の時間日光が入り、まぶしくなる為状況に応じて必要な場所にはカーテンをかける。（時間によって太陽の光の入る場所が変わる）	○	階段のおどり場が日光浴に最適な場所であり、その場所をフラット（平ら）な状態にする。２～３名の方が、一緒に日光浴を行こなえ楽しめる場所とする。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今まで２ケのみであったホールのソファーを３ケとする。ソファーで横になるなど、気に入っている方が多く購入するにいたった。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に入られる大きさのものであればなんでも持ってきて頂いている。又ぜひそうして頂きたい事をお伝えしている。	○	左記のとおり。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ替えの為、窓や換気扇、扇風機を利用している。	○	換気扇の掃除が使用頻度に対して少ない。最低でも３ヶ月に１度（季節ごと）は行こなっていきたい。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の手すり、イスなど日に日に変化する入居者の方々の身体状況に応じて物品や用具機材の変更、改善に努めている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症予防の計算や音読など実施をしているが、段々と良い点数となっている。その事が、生活の中でも好材料となる様工夫を行こなっていく。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	当ホームは１階、２階が別ユニットとなっているが、エレベーターと階段で楽に行きき出来るようになっている。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○　①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○　①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○　①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○　①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

現在、入居されている方々には比較的、集まって物事を行うのを苦にしない方々が多い。そこで集まっての体験や遊び、そして計算や漢字、ぬり絵、音読などを毎日、少しの時間でも行こなえる様に努めている。そこには良い意味でライバル心が生じる様であり、〝私も負けない様に！〟と計算に関しては全くできなかった事が、日に日にできる様になっている方もいる。この様にある程度の緊張感は大切な様であり、今後もその様に軟らかいところと硬いところを上手くとりまぜて、入居者の方々、それぞれにマッチした認知症の進行の予防を模索していきたいと考えている。